

第53回関東甲信越静公民館研究会日程日時 平成24年9月27日～28日

資料

2

第一日目9月27日 全体会 キッセイ文化ホール 松本市水汲69-2（11時30分～16時45分）

- ① 開会行事 ②表彰式 ③信州発！リレーメッセージ ④基調講演 白戸洋氏 松本大学教授 ⑤文部科学省施作説明 伊藤 学氏（文部科学省生涯学習政策局社会教育課長）⑥大会引継

第二日目9月28日 分科会 **（第8分科会出席）テーマ 学校・家庭。地域の連携**

場 所 松本市中央公民館 松本市中央1-18-1（8時～11時50分）

内 容 ①事例報告円野町かかし祭りの再生と公民館活動、②助言者から、③質疑応答

参加者 155名

**（1）事例 山梨県韭崎市円野町かかし祭りの再生と公民館 館長 内藤利信**

（韭崎市）山梨県の北西部に位置し、四方を山々に囲まれている第一次産業を中心とした田園都市、多くは兼業農家で、周辺市町に働き口を求めている。人口漸減が顕著に進行する中山間地。

**（円野地区公民館で重点を置いてきたこと）**

1. 一芸主義街づくり運動の推進。町民の中から分野を問わず、一芸に秀でた人に講師を頼み、公民館が企画運営する講習会を開き、一芸主義仲間づくり、生き甲斐と協調、地域文化、経済活性化をはかっている。
2. 広報活動の充実 広報紙を年間3回の定期刊行を中心に、公民館活動の目標、現状を新聞記事に詳細に広報することを目標としている。また、パンフレット等の配布を適宜行いこれを補完している。
3. 円野町 かかし祭りの再生と、その継承発展。公民館としてもかかし祭りに主体的に関わり、中心的組織として支援、協力する。円野町かかし祭り実行委員会を設ける

**円野町かかし祭り**：かかしを素材として、伝統的な豊作祈願と共に変貌する時代や世相、環境、教育、健康などの諸課題、また未来に託す夢や平和を希求する人々の表現を発信する。合わせて町民のふれあい。参加者との交流をはかることにより、楽しく豊かなまちづくりを進め特色ある地域文化を創造することをめざす。

（これまでの経過）平成6年に始まり現在18回を数える。

第一期：平成かかしカーバル時代（1回～15回）3週間、イベント大祭典、期間中の観光バス合計140台、観客数20,000人第15回目は最大となり来場者2000人、フラダンス、太鼓演奏、県警音楽隊、かかしコンクール写真コンクール、ふれあい位置で農産物販売、名物かかし汁、名物ヨモギ餅の販売等。

第2期：円野町かかし祭り時代（第16回～18回）3週間○前夜祭の新設 育成会子供クラブの夏祭りを共同でおこない、（夏祭り参加の児童の投票による）かかしコンクール表彰とこどもが選ぶかかし大賞5点新設、（こどもが選ぶかかし大賞新設）。15回まで、年々目覚ましく行事数が拡大してきたが、行き過ぎて問題が起こり、町民の意見を集約するための会議を4回開催し、イベント中心志向は、そのままに小さな国づくり主義から、文化芸術、純粹に地域志向型へ改革。かかし祭りと学校との連携。①かかし写真の構内提示②かかしまつりの見学に合わせて写生会、短歌会（文芸コンクール応募）を開く。③韭崎北西小学校の児童が自主的に製作した数体のかかしを田園にて展示。毎年、育成会や子供クラブの共同制作のかかしが展覧されている ④子供かかし大賞の投票。⑤三町（円野・清野・神山）通学合宿モデル事業の体験学習で、円野公民館において、地域の大人と一緒にかかし作りを学習。

**（2）助言 助言者韭崎市中央公民館 前館長 清水 一**

○共働である。（参加する人が作るために集まり、考え、共にに作り上げる努力）○住民、文化、芸術 作品から物を見つめる、物を正確にみる。○地域社会の連携感を醸成する。（楽しみ。考えながら共働、新しい時代に合った共働）

**（3）質疑応答**

参加者から規模は小さいが、同じように他市で行いつつある事例が、伝えられた。地域の通しがよくなる、子供たちが楽しい学校生活を送る援助ができると思うなどのよい面がある等と感想が述べられた、

「第53回関東甲信越静公民館研究大会」に参加して

遠藤久子

松本駅に降り立つと、お揃いの緑色のジャンパーを着たスタッフが点々と散らばり、道案内をしてくれました。すぐにバスに乗り全体会場へ。ここでもスタッフがたくさん。キッセイ文化ホール（長野県松本文化会館）は大きくて美しいホール。

全体会も弦楽四重奏を入れながら、「リレーメッセージ」なども、演出家による構成かしら…と思うほど、聴きやすかったです。

翌日の分科会は「第8分科会」で滝川さんと一緒でしたので、その報告は滝川さんにお任せします。

私は、全体会での文科省の「施策説明」（別紙）をお届けいたします。また、基調講演は「速報」よりお届けします。

## 公民館への期待と可能性を考える！！

～松本大学 白戸洋教授の基調講演から～

### 「公民館への期待と可能性」

#### 1 地域づくりと言うけれど

カルチャーセンター化していないか、貸館化していないか？  
地域で暮らしていくには嫌な人とも付き合いながら、楽しんで地域の人たちと付き合うこと。そして地域を本当に好きになれ。中途半端では地域の再構築は出来ない。



#### 2 公民館に期待される役割

学習の拠点と地域課題の共有から何を学んで、どう解決していくか。

嫌な人とも暮らしていくための考え方の調整方法と、共通のプロジェクト＝コミュニティづくりを考えよう。困ったことを共有し、解決のための行動をしよう。公民館はその橋渡しをするところ。

#### 3 地域で何から始めるか

行政に頼ることから、自分たちで考えて実践するパターンを確立する。視点を変えれば地域には宝物や人材がたくさん眠っている。掘り起こそう、若者の力に頼ろう。頼られるとみんなが動き、地域が活性化する。

#### 4 公民館が呼ばれている

人が育つ、仲間ができる。地域とかかわって学び合った成果を地域に還元する。公民館は学びと実践で、みんなの住む場所を作っていくところ。公民館の出番で～す！！